途上国研究(ベトナム）

宗教とソーシャルワーク―仏教の場合―

（中間報告書）

アジア福祉創造センター長
秋　元　　樹
2012年6月1日

ソーシャルワークは様々な社会問題－障がい、ホームレス、貧困、児童虐待、老人問題などに取り組んできたが、これらの問題はより複雑化し、支援を必要としている人々はますます増加している。このような状況において仏教を含めた宗教はチャリティや独自の活動を通して問題解決の役割を果たしている。宗教はそれぞれの国の社会経済生活の多くの側面において重要な役割を果たしているが、その中でも仏教はベトナムや日本など多くの国々で特別の役割を担っている。ソーシャルワークにおける仏教の教えや活動の影響・効果を証明したい。

ベトナムと日本における仏教とソーシャルワークについて比較研究を行う。

１　目的と内容

本研究では、異なる背景を持つ国における仏教のソーシャルワークへの関与を調査研究することによって、それぞれの進んでいる点(advantages)、遅れている点(disadvantages)を明らかにし、仏教のソーシャルワークの有効性(effectiveness)をたかめることへの貢献・戦略を提示することに焦点を充てる。同時に、仏教側の実践に対する専門職ソーシャルワーク側からの貢献を明らかにする。

より具体的には：

弱者(vulnerable people group)、特に彼(女)らの社会への統合を支援する現在の仏教の活動の事実を調べる。

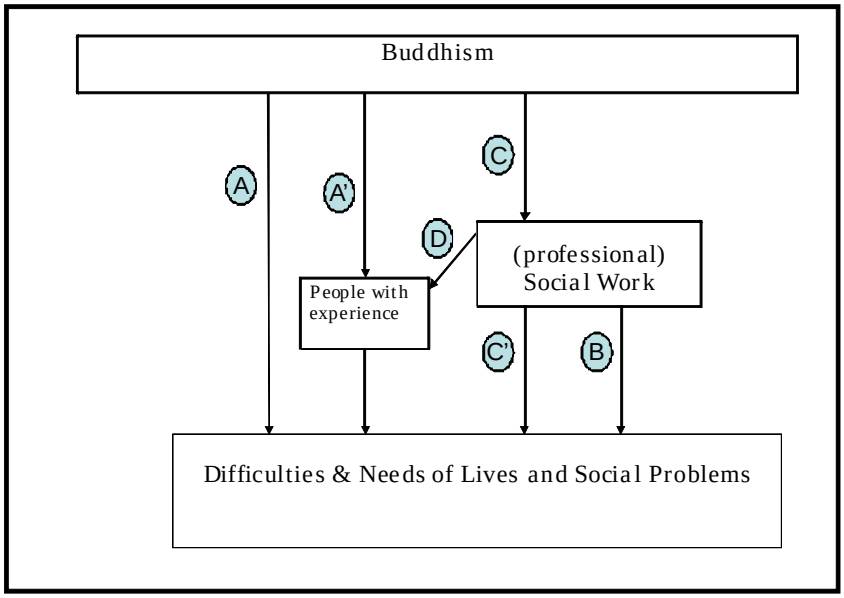
これとパラレルの現専門職ソーシャルワークの活動（価値/skills/アプローチ等を含む）をリストアップする。

ソーシャルワークにおける現在の仏教の活動の結果と限界を分析し、さらにその理由と影響する要素を分析する。

仏教のソーシャルワークへの統合(integration)し結果を前進させるための現在の仏教活動の変化を分析する。

ソーシャルワークにおける今日の仏教の活動の積極面を前進させ消極面を減少させるための可能な解決を提言する。

＜参考図＞



仏教およびソーシャルワークはいずれも人々の生活上の困難・ニーズおよび社会問題にたいし、その解決改善のために務めている（AおよびB)。仏教は、自ら直接（A）あるいは専門職ソーシャルワーカーでないしかし経験を持つ人々に働きかけこれを通して（A'）、あるいは専門職ソーシャルワークに働きかけこれを通して（C-C')人々の問題の緩和/解決に仕える。仏教のソーシャルワークへの貢献とはC-C'であるが、Dは逆に仏教の実践へのソーシャルワークからの貢献、吸収を意味する。

２．研究方法

資料の分析、グループ゜ディスカッション、インタビュー、質問紙による調査、ケーススタディ等

３．経緯と2012年3月末現在の進捗状況

年度内、当研究所アジア福祉創造センター長とベトナム国立社会人文科学大学副学長、社会学部長、ソーシャルワーク学科長との数回の下打ち合わせ、議論ののち、研究テーマおよび内容の専門性から淑徳大学の協力を求め、2012年3月21-22日、3者によるワークショップ及び準備会議をベトナム国立社会人文科学（ハノイ）にて開催。次の点を含む大枠の合意に達した。

なお、研究対する政府宗教管理局、労働厚生省、ベトナム仏教界の了承・協力が表明されている。研究が軌道に乗った段階でAPASWE のCosponsorshipも申請される。

（１）研究資金

本学共同研究費のほかに淑徳大学においても学内研究費を用意するよう努力する。当面U

SSHの学内資金は期待できないが、将来学外からの資金を期待する。

（２）研究態勢

＜Ａチーム＞　実質的研究開始後、APASWE のCosponsorshipを申請する。

秋元樹（本学アジア福祉創造センター長、APASWE 会長）

Zulkarnain Hatta(APASWE 理事）

<ベトナムチーム>

Nguyen Loi Loan, Assoc. Prof., Dr., ソーシャルワーク学科長

Nguyen Van Kim, Prof. Dr., 副学長(Vice Rector)

Nguyen Thi Kim Hoa, Assoc. Prof., 社会学部長

Nguyen Duc Truyen, Dr. (sociology), Vietnamese Academy of Social Sciences Institute of Sociology

Pham This Thu Giang, Dr. (Japanese Buddist history), **東洋研究(Oriental Studies)学部　ほか**

<日本（淑徳大学）チーム>

田宮仁（総合福祉学部教授）

藤森雄介（国際コミュニケーション学部准教授）

渋谷哲（総合福祉学部准教授）

顧問　**長谷川**匡俊**(理事長、学長**)

秋元樹Akimoto（本学アジア福祉創造センター長、APASWE 会長）

（３）研究期間

3年とする。第1年目はデーターの収集、2，3年目は分析。（当初案は2012年4月～2013年3月 の1年。本研究所の関与は現時点では2013年3月までとする。）

（４）対象国

研究の進展および資金の準備によっては2年目以降、他国への拡大も考える。

（５）2012年度の予定

実質的調査研究は2012年4月以降に開始する。8月にはベトナムチームが日本を訪れる。（日本チームは6，7月に共通調査票作成のため、10，11月に実地調査のためベトナムを訪れる。）

年度末に中間報告書を作成する。

４．3月ワークショップ

上記本研究参加者のほか、学内外の研究者、実践家、学生等が参加。それぞれの国の仏教及びその研究の現状、小史に関する報告がなされ、相互の基礎的理解を深めた。

諸実践を行っている寺院をはじめ数箇所のフィールとビジットもなされた。

５．Some preliminary findings (仏教とソーシャルワークの相違)

仏教にあってはソーシャルワークに比し心の問題にも深い関心を寄せる。「仏教によると、ソーシャルワークにおける役割を果たすために、ソーシャルワーカーは４つの無限の心を修業し極めなければならない。Affection、Compassion、Happiness、Abandonment」（Dr. Loanによる調査研究計画案）

専門職ソーシャルワークにあっては歴史上の過去のものと否定する慈悲charityを仏教にあっては現在もなお中心的なものと維持する。(同)
仏教（寺）は、生活上のあらゆる問題を24時間面倒を見るが、専門職ソーシャルワーク(ソーシャルワーカー・施設）は職務範囲と勤務時間がある。(田宮教授)